

## ふれあい文化講座講師紹介

多川俊映 氏

1947（S22）年、興福寺先々代住職多川乗俊氏の三男として、奈良市に生まれる。1969（S44）年、立命館大学卒業。専攻は心理学。興福寺執事、副住職を経て、平成元年興福寺貫首に就任。奈良六大寺（東大寺・薬師寺・唐招提寺・西大寺・法隆寺・興福寺）の中でも、最も若い住職として、また学問僧として多数の著書がある。現在奈良で最も輝いている僧侶の一人として注目されており、今後の活躍が大いに期待されている。

現在、興福寺南円堂の平成大修理を終え、今秋のパリ・グランパレ美術館を皮切りに、東京国立博物館をはじめ、日本各地で開催される「興福寺展」の準備に忙しい。

（主な著書）

「興福寺」

「慈恩大師御影聚英」

「奈良興福寺」

「日本仏教基礎講座 奈良仏教」

「唯識十章」

「観音仏教のこころ」他

青山茂 氏

1924年（T13）、大阪市に生まれる。京都大学法学部卒。大学卒業後、毎日新聞社奈良支局文化財関係の記者を経て、大阪本社学芸部に勤務。帝塚山短期大学教授を経て、現在は奈良市教育委員会委員長、奈良学研究者として活躍中。

奈良支局記者時代に、太平洋戦争を経験した直後の奈良の寺社の住職や神主に直接取材し、それらの寺が大きく変貌を遂げた様子にも詳しい。また、奈良の年中行事の1つである、興福寺東金堂の鬼追式の創始者の1人でもある。

（主な著書）

「大和古寺巡礼」

「平城京時代」

「掘り出された奈良の都」

「東大寺」

「大和歴史散歩」

「斑鳩の匠宮大工三代」

「蘇る薬師寺西塔」

「南都の匠仏像再見」

「正倉院の匠たち」他

奈良県教育委員会文化財保存課 鈴木喜博 氏

務。

大学院在学中は日本彫刻史を研究し、現在は日本仏像彫刻の宝庫である奈良県を舞台に活躍中。氏の論文は、彫刻史研究家の基礎資料となっている。

歴史学者のほとんどの方は、趣味と職業が一致することが多く、氏もそのひとりである。

（主な著書）

「檀像の概念と栢木の意義」（「日本美術全集」講談社）

「吉野・金峯山寺の木造釈迦如来坐像とその像低墨画について」（「仏教藝術」180号 毎日新聞社）

「西大寺の仏像」（「西大寺防災工事・発掘調査報告書」）

「当麻石光寺と弥勒仏概報」（吉川弘文館）

「石光寺の発掘と出土遺物」（「仏教藝術」203号）

「唐招提寺の仏像」（「唐招提寺防災工事・発掘調査報告書」）

「南円堂本尊不空罽索観音像の修理を終えて」（「興福」91,92,93号）

「東大寺仁王像修理工事報告書」（東大寺）

## ふれあい文化講座講師紹介

奈良女子大学名誉教授 本 田 義 憲 氏

1922(T11)年京都府生まれ。京都帝国大学文学部(現京都大学文学部)卒。

京都外国語大学教授、奈良女子大学教授を歴任。

現在は、奈良女子大学名誉教授、京都外国語大学名誉教授。

研究テーマは、日本古典文学及び日本語について。

萬葉学会・朝鮮学会・京大文学会に所属し、多方面において活躍中。

(主な著書)

「今昔物語集(本朝世俗部) ~ 」(新潮社)

「敦煌資料と今昔物語集との異同に関する考察 ~ 」(研究年報7,9,10)

「今昔物語集佛伝の研究 叙説」(研究年報10)

「万葉の碑」(田村泰秀共著・創元社)

「今昔物語集仏伝外伝の出典論的考察」(「説話論集」第1集 清文堂)

「説話の講座」1~6巻(共同編集 勉誠社)

毛利光俊彦

1946(S21)年広島県生まれ。広島大学卒。

1975年(S50)年奈良国立文化財研究所に入所。現在は同研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部史料調査室長。

専門は考古学。

伊野近富

1954(S29)年愛媛県生まれ。龍谷大学卒。

京都府教育委員会文化財保護課嘱託職員を経て、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター発足と同時に調査員として勤務。現在は同センター調査第2課第1係長。

専門は土器・陶磁器の研究。

足利健亮

1918(T7)年北海道生まれ。京都大学大学院修了。

大阪府立大学・京都大学助教授等を経て、現在は京都大学大学院人間・環境学研究科教授。

専門は人文地理学・歴史地理学。

上原真人

1949(S24)年神奈川県生まれ。京都大学大学院修了。

奈良国立文化財研究所勤務を経て、現在は京都大学大学院文学研究科教授。

専門は考古学。特に近畿地方出土器の集成的研究など。

高橋美久二

1944(S19)年広島県生まれ。京都大学卒。

京都府教育庁指導部文化財保護課技師・京都府立山城郷土資料館館長補佐を経て、現在は滋賀県立大学人間文化学部助教授。

専門は考古学・歴史地理学。

滋賀県立大学助教授 高 橋 美久二 氏

1944(S19)年広島県生まれ。京都大学文学部卒。

京都府教育庁指導部文化財保護課技師、京都府立山城郷土資料館館長補佐、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター調査第1課長を歴任。

現在は、滋賀県立大学人間文化学部助教授。

専門は、歴史地理学的立場からの交通路の変遷。その他パソコンを利用した歴史系博物館の展示技術の開発等の新たな取り組みにも積極的である。

日本考古学協会・人文地理学会・古代交通研究会等に所属し、多方面で活躍中。

主な著書

「古代交通の考古地理」(大明堂)

「京都考古学散歩」(共著・学生社)

「よみがえる長岡京」(共著・大阪書籍)

## ふれあい文化講座講師紹介

帝塚山大学教授 森 郁 夫 氏

1938( S 1 3 )年愛知県生まれ。國學院大学文学部卒。

奈良国立文化財研究所、京都国立博物館を経て、現在は帝塚山大学教授。

専門は歴史考古学を中心とする日本考古学。中でも、古代寺院や宮の造営にかかるとの瓦の研究に造詣が深い。

日本考古学協会に所属し、研究活動・講演・指導等に多忙な毎日である。

主な著書

「畿内と東国の瓦」(京都国立博物館)

「瓦と古代寺院」「続・瓦と古代寺院」(六興出版)

「わが国古代寺院の伽藍配置」(「学叢」13号)

「瓦」(ニューサイエンス社)

奈良女子大学教授 松尾良樹氏

1946( S 2 1 )年生まれ。京都大学大学院博士課程修了。

奈良女子大学助教授等を経て、現在同大学教授。

専門は、中国語の口語の歴史的研究で、特に唐時代の話し言葉研究の世界的権威である。日本中国学会・中国語学会等に所属し、研究・講演活動などに多忙な毎日である。

主な著書

「淳化閣帖」(二玄社)

「日連縁起」(「大乘仏典」敦煌 角川書店)

「『万葉集』詞書と唐代口語」(「叙説」)

「敦煌」大乘仏教典日本・中国篇第10巻(中央公論社)

元京都府立総合資料館次長 黒川直則氏

1937( S 1 2 )年生まれ。立命館大学大学院修士課程修了。

1987年10月より京都府立総合資料館に勤務。平成9年3月31日付けで退職。現在は、同館嘱託職員・古文書調査研究員として勤務。

専門は、日本中世史。特に室町時代の国一揆・土一揆を中心とした民衆史に造詣が深く、京都市史、宇治市史、城陽市史、精華町史、山城町史、木津町史の執筆者の1人である。

主な著書

「京都市史」(共著)

「宇治市史」(共著)

「木津町史」(共著)

滋賀県立大学教授 菅谷文則氏

1942( S 1 7 )年9月7日、奈良県生まれ。関西大学大学院文学研究科修士課程修了。

専門は考古学、特に東アジア考古学が中心。

檀原考古学研究所附属博物館学芸室長、同第一調査課長、シルクロード学研究センター研究主幹などを経て、現在は滋賀県立大学教授。

奈良県大峰山寺本堂地下の発掘調査団責任者となったことを契機に山岳遺跡の実態解明を呼びかけ、「山の考古学会」を発足させるなど幅広く活動している。

日本考古学協会、古代学研究会、日本中国考古学会会員。

主な著書

「日本の古代遺跡 奈良飛鳥」(保育社)

「日本人と鏡」(同朋舎出版)

「東夷和百越 - 対日本方面考古資料的考察 - 」(国際百越文化研究)

## ふれあい文化講座講師紹介

大阪大学教授 村田修三氏

1938( S13 )年9月27日、兵庫県生まれ。京都大学大学院文学研究科国史専攻博士課程修  
奈良女子大学文学部教授などを経て、現在は大阪大学教授。  
専門は日本中世史、特に中世城郭史、中世大和の社会を中心に研究。  
日本史研究会、歴史科学協議会、歴史学研究会会員。

「戦国大名毛利氏の権力構造」(日本史研究)  
「中世後期の階級構成」(日本史研究)  
「日本封建制論」(東京大学出版会)  
「日本城郭体系」(編集)  
「岩波講座 日本歴史・中世4」(共著・岩波文庫)

元興寺文化財研究所主任研究員 吉井敏幸氏

1949( S24 )年4月15日、奈良県生まれ。大阪市立大学大学院日本中世史専攻博士課程修了。  
大学院博士課程修了後、現在の文化財研究所に勤務し、現在は、同研究所主任研究員。  
専門は宗教史で、特に寺院・社寺の歴史及びその組織について研究をすすめており、各寺院等から依頼  
される調査や各学術団体等で、幅広く活躍中。

「近代の西大寺と真言律宗」  
(南都寺院では、はじめて近代の通史について述べたものとして注目を集めている。)

奈良大学名誉教授 近藤公夫氏

1929( S4 )年2月5日、京都市生まれ。京都大学大学院農学研究科造園学専攻博士課程修了。  
京都大学助手、奈良女子大学助教授、同教授を経て、現在は神戸芸術工科大学教授。その間、パキスタ  
ン国首都開発庁、カリフォルニア大学、ハンブルグ大学などにも出向。  
専門は、公園緑地計画・歴史的風土保全修景計画。  
日本造園学会国際代表、奈良県風致審議会会長、兵庫県文化財保護審議会会長等、幅広く活躍中。  
日本造園学会賞、大阪府知事表彰等多数の受賞経験もある。

「環境修景論」  
「造園技術大成」  
「住居管理学」

宮内庁正倉院事務所保存科学室長 成瀬正和氏

1954( S29 )年、東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科保存科学研究修士課程修了。  
大学院修士課程修了後、正倉院事務所に勤務し、現在は、同事務所保存科学室長。  
正倉院に伝来する文化財保存の第一人者として、多方面で活躍中である。

「正倉院の“朱印”“朱筆”」(「日本歴史」521号)  
「奈良時代の鉛系白色顔料」(正倉院年報第14号)  
「正倉院における顔料調査」(「仏教藝術」200号)  
「蒔絵漆器の製作技法に関する自然科学的調査」(「古文化財の化学」39)  
「正倉院伎楽面の分類と使用顔料・彩色技法」(「仏教藝術」213号)

京都大学教授 上原真人氏

1949( S24 )年、神奈川県生まれ。京都大学大学院博士課程修了。  
奈良国立文化財研究所勤務を経て、現在は京都大学大学院文学研究科教授。  
専門は考古学。特に近畿地方出土器の集成的研究などが中心。  
日本における古代瓦研究の第一人者として、多方面で活躍中。

「瓦を読む」(講談社)  
「蓮華文」(「日本の美術」)  
「古代末期における瓦生産体制の変革」(「古代研究」13・14)  
「天平12・13年の瓦工房」(「研究論集」)  
「仏教」(「岩波講座日本考古学」第4巻)  
「古代の造瓦工房」(「古代史復元」第9巻)

## ふれあい文化講座講師紹介

愛知県立芸術大学教授 山崎 隆之 氏

1942(S17)年、東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科保存修復技術修士課程修了。

専門は保存修復技術、日本彫刻技法史で、特に仏像彫刻の材質技法に関する研究が中心。

名古屋市文化財審議委員、岐阜市文化財審議委員として、また、美術史学会、日本文化財科学会、古文化財科学研究会会員としても活躍中。

「奈良時代の乾漆技法 - 心木と布貼りについて」(「佛教芸術」193号)

「寄木造の成立と展開」(「日本の美術 - 今何が学べるか」昭和堂)

「日本美術の技法 - 塑像と乾漆像」(「日本美術全集」第4巻 講談社)

京都大学教授 足利 健亮 氏

1936(S11)年、北海道生まれ。京都大学大学院修士課程修了。専攻は地理学。

京都大学、大阪府立大学助教授等を経て、現在、京都大学大学院人間・環境学研究科教授。

専門は人文地理学・歴史地理学。

人文地理学会・日本地理学会各評議員、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター理事、滋賀県文化財保護審議委員など、幅広く活躍中である。

「日本古代地理研究」(大明堂出版社)

「中近世都市の歴史地理」(地人書房)

「地図の風景」

奈良女子大学教授 坂本信幸氏

1947(S22)年、高知県生まれ。同志社大学大学院修士課程修了。京都女子大学、京都市立芸術大学などの非常勤講師の後、大谷女子大学専任講師、助教授を経て、現在は奈良女子大学教授。

専門は上代文学。特に初期万葉の作品論や、山部赤人、高橋虫麻呂など万葉第3期の歌人論、作品論を中心に研究をすすめている。

萬葉学会編集委員、上代文学界理事、龍短歌会同人・運営委員としても活躍中である。

歌集「雪に恋ふ」

「巻一卷頭歌群の意義」(「国語と国文学」第60巻第2号)

「山を越す風」(「ことばとことのは」第5集)

「伝説歌の形成」(「萬葉集研究」第19集)

宮内庁正倉院事務所保存課長 木村法光氏

1939(S14)年、滋賀県生まれ。京都市立美術大学(現芸術大学)卒。

大学卒業後、宮内庁正倉院事務所保存課調査室に総理府技官として長。

専攻は漆工芸史・木工・漆工・金工などの古代工芸技術の研究に取り組み組んでおり、正倉院宝物研究の第一人者としても知られている。また、現在刊行中の「正倉院宝物」(毎日新聞社)の責任者として、漆工史学会理事としても活躍中である。

「正倉院の調度」(至文堂)

「漆胡瓶」(「国華」)

「紫檀木画箱の復元構造をめぐって」(正倉院年報)

「奈良時代の平脱・平文」(「漆工史」)

「憧憬交具について - 特に法隆寺系金具について - 」(正倉院年報)

## ふれあい文化講座講師紹介

堺女子短期大学学長 塚口義信氏

1946(昭和21)年、大阪府柏原市生まれ。

関西大学第一高等学校・第一中学校教諭、関西大学講師を経て現職  
専門は、日本古代史・文化人類学。

「神功皇后伝説の研究」 1980 (創元社)  
「倭建命」 1983 (ぎょうせい)  
「木津町史」 1991 (木津町)  
「古代王朝をめぐる謎」 1995 (学生社)  
「ヤマト王権の謎をとく」 1993 (学生社)  
他多数

倉敷芸術科学大学教授 岡 幸二郎氏

(芸術学部工芸科、大学院芸術研究科博士課程後期)

1932(昭和7)年、兵庫県生まれ。

兵庫県三田学園高校教諭から奈良県教育委員会技師となられ、橿原市千塚資料館次長・主幹、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館等の勤務の後、現在は倉敷芸術大学教授。  
奈良県奈良市・天理市史跡管理計画策定委員や奈良教育大学・香川大学・龍谷大学等で非常勤講師も勤められている。

- ・「有機物質の保存研究」『歴史研究』4 大阪学芸大学
- ・「保存資料 - 展示資料の限界について - 」『博物館研究』42-1 日博協
- ・「古代墨の用法と源流」『関大考古学研究室開設30周年記念論集』
- ・「古墳時代集落とその地域的特質」『講座考古地理学』4
- ・「七支刀銘字について - その観察と記録」『田村圓澄先生古稀記念論集』
- ・『大和国古墳墓取調書(復刻)』 橿原考古学研究所
- ・末永博士米寿記念「正倉院の七宝鏡」  
他多数

帝塚山大学教授 森 郁 夫 氏

1938(513)年愛知県生まれ。國學院大学文学部卒。

奈良国立文化財研究所、京都国立博物館を経て、現在は帝塚山大学教授。

専門は歴史考古学を中心とする日本考古学。中でも、古代寺院や宮の造営にかかるとの瓦の研究に造詣が深い。

日本考古学協会に所属し、研究活動・講演・指導等に多忙な毎日である。

主な著書

「畿内と東国の瓦」(京都国立博物館)  
「瓦と古代寺院」「続・瓦と古代寺院」(六興出版)  
「瓦」(法政大学出版局)  
「日本古代寺院造営の研究」(法政大学出版局)

元大阪大学教授 村田修三氏

1938(昭和13)年兵庫県生まれ。1961(昭和36)年京都大学文学部卒業、同大学大学院文学研究科博士課程に進まれた後、1969(昭和44)年から同大学文学部助手。

1972(昭和47)年に奈良女子大学文学部助教授になられ、1988(昭和63)年から同大学文学部教授。1997(平成9)年からは大阪大学文学部教授となられ、2002(平成14)年退職。

専門は、日本中世史、特に中世城郭史、中世大和の社会を中心に研究されている。

主な著書

『日本城郭大系』全10巻 編著 新人物往来社 1980  
『図説・日本城郭事典』全3巻 編著 新人物往来社 1987  
『中世城郭研究論集』編著 新人物往来社 1990  
『新視点・中世城郭研究論集』編著 新人物往来社 2002

## ふれあい文化講座講師紹介

独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所文化遺産研究部主任研究官 小野健吉氏

1955(昭和30)年和歌山県生まれ。京都大学農学部林業科卒業、農学博士。  
東京都庁・京都市役所勤務を経て、奈良国立文化財研究所に入所。平城宮跡・飛鳥藤原宮跡の発掘調査に携わった後、2001(平成13)年から現職。

専門は、日本庭園史、遺跡修景学。

主な著書

- 『造園を読む』共著 彰国社 1993
- 『古都発掘』共著 岩波書店 1996
- 『醍醐寺大観3』共著 岩波書店 2001
- 『古代庭園の思想』共著 角川書店 2002

織豊期城郭研究会会長 中井 均氏

1955(昭和30)年大阪府生まれ。龍谷大学文学部史学科卒業。(財)滋賀県文化財保護協会を経て、現在米原町教育委員会生涯学習課課長補佐。

織豊期城郭研究会を主宰。

専門は、日本考古学、特に中世城館。

主な著書

- 『近江の城 - 城が語る湖国の戦国史 - 』サンライズ出版 1997
- 「多聞院英俊が見聞した城郭 - 中世城郭から近世城郭へ - 」『多聞院英俊の時代』シンポジウム「多聞院英俊の時代」実行委員会編 2001
- 「中世城館遺跡から出土する土錘について - その集成を中心に - 」『久保和土君追悼考古論集』同刊行会 2001
- 「織豊系城郭の地域的伝播と近世城郭の成立」『新視点 中世城郭研究論集』新人物往来社 2002